総社町屋敷南遺跡２

市道 18-449、18-457 号線道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

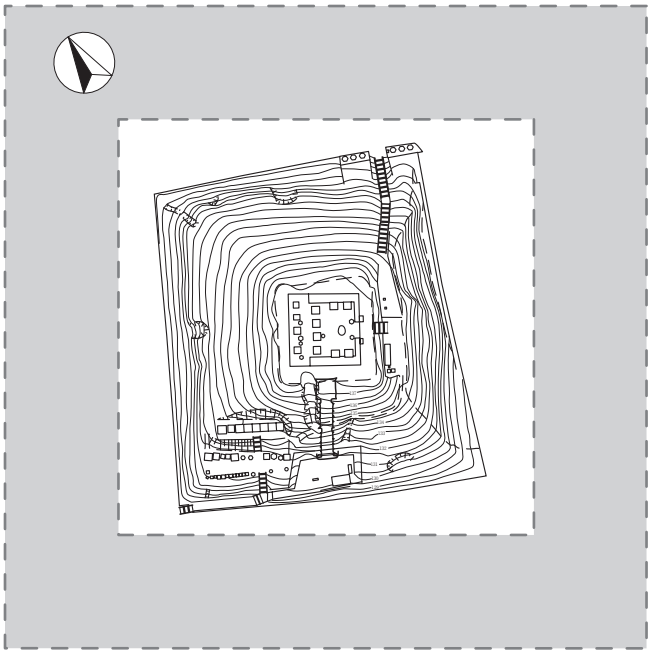
２０１１．８

前橋市教育委員会

総社町屋敷南遺跡２

市道 18-449、18-457 号線道路改良工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書



宝塔山古墳の推定範囲（1/1200）

２０１１．８

前橋市教育委員会

宝塔山古墳と調査区全景（上が西）

調査区全景（北東から）

周堀底面状況（南西から）

周堀As-B堆積状況

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する総社町屋敷南遺跡２では、宝塔山古墳周堀の一部を解明することができました。すでに、平成21年度に実施した総社公民館建設に伴う総社町屋敷南遺跡１において宝塔山古墳の北東部コーナーの調査を実施しており、今回の調査でさらに周堀の延長を確認できました。

今回の調査成果から、宝塔山古墳の規模を見直した結果、堀を含めた場合、100ｍ超を測ります。

宝塔山古墳の墳丘についてはすでに国指定となっており、周堀についても条件が整えば今後、追加指定の動きがあります。調査後はできる限り養生に努めて埋め戻しを実施しました。今回の調査で、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成23年８月

前橋市教育委員会

教育長　　佐　藤　博　之

例　　言

1　本報告書は市道 18-449、18-457 号線道路改良工事に伴う総社町屋敷南遺跡２発掘調査報告書である。

2　発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	総社町屋敷南遺跡２
調査場所	前橋市総社町総社 1602-2
遺跡コード	23 A 139
発掘・整理担当者	佐野良平（技研測量設計株式会社）
発掘調査期間	平成 23 年６月６日～６月 14 日
整理・報告書作成期間	平成 23 年６月 15 日～８月 10 日

3　本書の原稿執筆はＩを福田貫之（前橋市教育委員会）、他を佐野が担当した。

4　本書は挿図・図版を含む全ての記録をデジタル化して編集し、DTP による組版作業を行った。作業は佐野が担当した。

5　発掘調査、及び整理作業参加者は次のとおりである。

山田誠司　中村岳彦（技研測量設計株式会社）

女屋みどり　瀧澤佳子　田部井美砂子　間庭啓治

6　本書における図面・写真は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

7　Ⅵ章において使用した宝塔山古墳測量図は林部　均氏（国立歴史民俗博物館）より提供していただいた。また、下記の諸氏・機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（順不同、敬称略）

能登　健　右島和夫　山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に国土地理院発行 1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、溝：W、土坑：D、ピット：Ｐである。

4　遺構実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照。

遺構　土坑・ピット・・・1/60　周堀・溝・・・1/100

全体図・・・1/100

5　断面図上のトーン表現は以下の通りである。

As-B 一次堆積層　：　　As-Kk（浅間粕川テフラ）　：

6　本文および表中の計測値については［　］は現存値をを表す。

7　主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-A（浅間Ａ軽石：天明三年、1783）

As-B（浅間Ｂ軽石：天仁元年、1108）

目　　次

巻頭図版１
巻頭図版２
はじめに
例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　調査方針…… 1
Ⅲ　遺跡の位置と環境
　遺跡の位置 …… 2
　歴史的環境 …… 2
Ⅳ　基本土層…… 3
Ⅴ　遺構
　1　宝塔山古墳周堀…… 3
　2　溝・土坑・ピット…… 3
Ⅵ　成果と課題
　1　宝塔山古墳の概要…… 6
　2　宝塔山古墳の想定…… 6
　3　溝状遺構…… 7
　4　耕作具痕跡…… 7
　5　結…… 7
付編　宝塔山古墳石室および石棺実測図…… 9

挿図目次

第１図　総社町屋敷南遺跡２位置図
第２図　前橋市の地形…… 1
第３図　周辺遺跡図…… 2
第４図　基本層序…… 3
第５図　総社町屋敷南遺跡２全体図…… 4
第６図　遺構平面・断面図…… 5
第７図　宝塔山古墳想定図…… 8
第８図　宝塔山古墳横穴式石室実測図…… 9
第９図　宝塔山古墳家形石棺実測図…… 10

表目次

第１表　溝・土坑・ピット計測表…… 3

写真図版目次

PL.1　調査区　全景、宝塔山古墳と調査区　全景
PL.2　周堀　全景、調査区南壁面際周堀底面状況、溝状遺構確認状況、耕作具痕跡確認状況、耕作具痕跡　全景、作業風景

第１図　総社町屋敷南遺跡２位置図

Ⅰ　調査に至る経緯

平成 21 年 7 月 3 日付けで前橋市長　高木政夫（道路建設課）より市道 18-449、18-457 号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財確認調査依頼が前橋市教育委員会に提出された。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地（宝塔山古墳）に属するため、前橋市と記録保存を目的とした発掘調査について度重なる調整を行なった。平成 23 年 5 月 11 日付けで前橋市長 高木政夫（道路建設課）より埋蔵文化財の発掘調査依頼が教育委員会に提出された。これを受けた教育委員会では既に直営による発掘調査を実施し、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織を導入して発掘調査を実施することとした。その後、平成 23 年 5 月 30 日付けで、前橋市と民間調査組織である技研測量設計（株）（代表取締役社長　嶋田大和）との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、現地調査を開始することとなった。

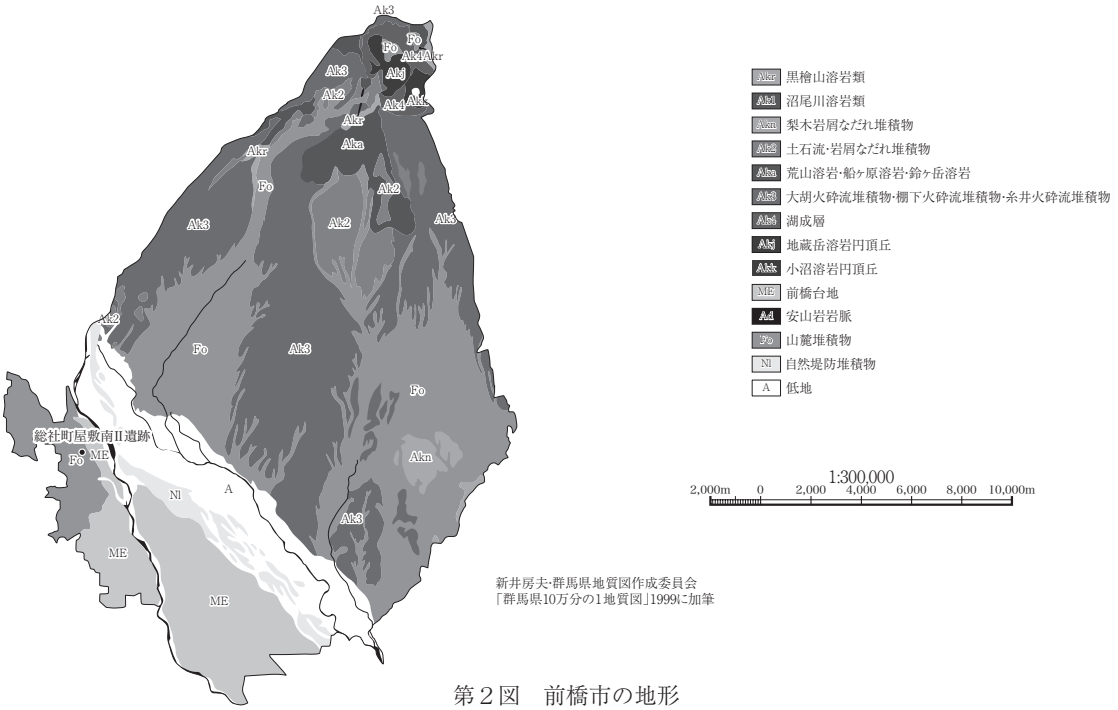
Ⅱ　調査方針

委託調査箇所は、市道 18-449、18-457 号線道路改良予定地で、調査面積は 197 ㎡である。グリッド座標については国家座標（世界測地系）X = 45520.000、Y = − 71260.000 を基点とする 4 m ピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして、北西隅を基点に番付して呼称とした。調査区の公共座標は以下のとおりである。

測点	世界測地系（第Ⅸ系）	日本測地系（第Ⅸ系）
X２、Y２	X = 45528.000、Y = − 71252.000	X = 45173.136、Y = − 70960.237

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.45 バックホー）で表土掘削を行った。遺構の確認・掘削は発掘作業員により移植コテ・鋤簾などで慎重に行った。遺構調査に関しては土層の堆積状況を確認するために周堀は壁面、土坑・ピット等は長軸方向にベルトを設定し観察を行った。

遺構図化については電子平板を用いて平面図・断面図の測量・編集を行い、断面図についてはオルソーフォトに変換して編集を行った。遺構の記録写真については 35mm モノクロ・カラーリバーサル・デジタルカメラの３種類を用いて担当者が撮影、遺跡全体に対してはラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施した。



第２図　前橋市の地形

Ⅲ　遺跡の位置と環境

遺跡の位置　本遺跡は前橋市街地から北西方向へ約４kmの総社町総社地内に位置する。東へ約１kmには利根川、西へ300ｍには上越線、約700ｍには産業道路が共に南北へ走っている。本遺跡周辺の地形は榛名山麓から広がる相馬ヶ原扇状地の末端部にあたる。

歴史的環境（第２図）　本遺跡の周辺では関越自動車道建設や区画整理事業等に伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。周辺地域における時代ごとの遺跡の概要は以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東（22）・産業道路西（23）、牛池川右岸台地上では上野国分僧寺・尼寺中間地域（18）が挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。

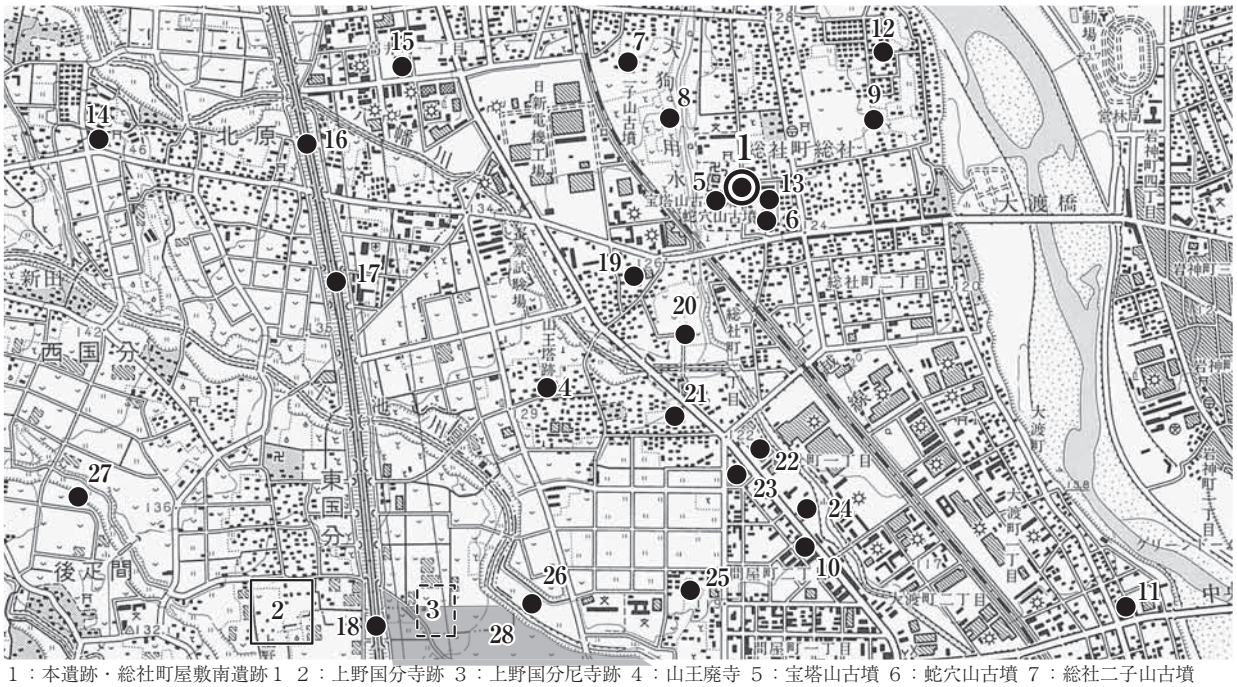
弥生時代の遺跡としては上野国分僧寺・尼寺中間地域（18）のみであり、その分布は散漫である。

古墳時代、総社地域は県内でも中心的な地域であったことが窺われ、それを示すものとして総社古墳群が挙げられる。古墳時代後期･終末期において、遠見山古墳（９）、王山古墳（11）、総社二子山古墳（７）、愛宕山古墳（８）、宝塔山古墳（５）、蛇穴山古墳（６）等の首長墓が多数築造された。宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室は山王廃寺（４）の石造物にみられる高い技術で造られており、石棺脚部の格狭間は仏教色の強い様相を示している。

奈良･平安時代に至ると南方の元総社地域には上野国府、上野国分寺（２）、上野国分尼寺（３）、山王廃寺（４）の建設に示されるように古代上野国の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

室町時代になると上野国守護の上杉氏から上野国守護代に任命された長尾氏が永享元年（1429）に元総社地域に蒼海城を築き、これを本拠地とした。蒼海城は県内でも最古級の城郭に位置づけられ、縄張りは国府の地割と関連深いと考えられている。元総社蒼海遺跡群（28）では蒼海城の堀跡が多数確認されている。

江戸時代、総社藩主の秋元長朝は利根川の上流から水を引き入れて天狗岩用水・五千石用水などの農業用水を整備し、また荒廃していた蒼海城を廃城、新たに植野勝山（現在の総社町付近）に総社城（12）を築城した。秋元氏が甲州谷村へと移封されると総社周辺は佐渡街道の宿場町となる。現在でも往時の姿を想像させる古い民家が街道沿いに見られる。

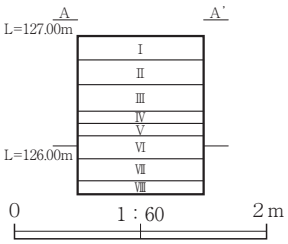


１：本遺跡・総社町屋敷南遺跡１　２：上野国分寺跡　３：上野国分尼寺跡　４：山王廃寺　５：宝塔山古墳　６：蛇穴山古墳　７：総社二子山古墳
８：愛宕山古墳　９：遠見山古墳 10：稲荷山古墳 11：王山古墳 12：総社城 13：総社町屋敷南遺跡No.1 14：熊野谷遺跡 15：柿木遺跡・柿木Ⅱ遺跡
16：北原遺跡 17：国分境遺跡・国分境Ⅱ遺跡・国分境Ⅲ遺跡 18：上野国分僧寺・尼寺中間地域 19：村東遺跡 20：大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ
21：昌楽寺廻向遺跡・昌楽寺廻向Ⅱ遺跡 22：産業道路東遺跡 23：産業道路西遺跡 24：稲荷塚道東遺跡
25：総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡 26：元総社北川遺跡 27：後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ 28：元総社蒼海遺跡群

第３図　周辺遺跡図（1/25,000）

Ⅳ　基本土層

調査区内での標準的な堆積状況が確認できる場所を基本土層とし観察を行った。周辺域や周堀上層で確認されている黒色・暗褐色土層は削平されており、主としてそれらの下層に位置する総社砂層（Ⅲ層～）の検出となった。



基本層序　SPA
Ⅰ　表土層
Ⅱ　暗褐色土（10YR3/3）　にぶい黄橙色土粒を少量含む。
　　As-A混土。締まり有り、粘性有り。
Ⅲ　にぶい黄橙色土（10YR7/3）　やや砂質。締まりやや強い、粘性やや強い。
Ⅳ　灰黄褐色土（10YR6/2）　粗粒の硬質砂層。締まりやや強い、粘性弱い。
Ⅴ　灰黄褐色土（10YR6/2）　細粒の硬質砂層。締まりやや強い、粘性弱い。
Ⅵ　黄褐色土（10YR5/6）　黄褐色粘質土層。締まり有り、粘性やや強い。
Ⅶ　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　黄褐色砂質土層。
　　黄褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
Ⅷ　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　黄褐色砂質土層。締まり有り、粘性有り。

第４図　基本層序

Ⅴ　遺構

１　宝塔山古墳周堀（第５・６図、PL. １・２）

位置　Ｘ１～３、Ｙ４～９　**主軸方向**　Ｎ－30°－Ｅ　**規模**　上端幅［16.3］m、堀底幅［14.6］m、確認長11.5 m、深さ1.05 m。　**調査面積**　83.65 ㎡　**形状**　外側の立ち上りは上位やや平坦気味に傾斜、中位に段を有し、中位から下位へは約30°の傾斜角を持つ。上位の平坦部は崩落の可能性が考えられる。底面は上面からの掘削部を除けば調査区南壁際まで比較的に平坦な状態が続く。また今調査では内側（墳丘側）の立ち上りや立ち上がりの兆候の確認には至らなかった。　**覆土**　外側立ち上り際の崩落土やAs-B上面から等の掘り込み部を除けば概ね均一な自然堆積である。最下層の21層は直下の砂層と黄橙色粒を含む砂質土でその上層は腐植土と考えられる黒色粘質土である。As-Bは周堀中央部を中心に一次堆積層が、軽石上層には灰赤色火山灰層、As-Kk（浅間粕川テフラ）が部分的に確認された。底面からAs-B最下位まで約12cm。　**底面状況**　中央部付近で浅い溝状の掘り込み（９条）を確認。軸方向Ｎ－23～40°－Ｅ、最大長［8.6］m、最大幅0.5 m、深さ約４～７cm。覆土は周堀覆土最下層の21層土を主体とし、上位に16層土を粒状に含む。耕作具等の痕跡は確認されず。覆土状況から上層からの掘り込みではなく周堀築造時からさほど時間を経過しない時期に掘削されたと考えられるが、明確な時期を特定できる要因が無く判然としない。　**耕作具痕跡**　軸方向Ｎ－63°－Ｗ、確認長6.3 m、幅約1.8 mの耕作具痕跡を帯状に確認。平面形は半月状を呈し（弧が東を向く）、東西方向に列状を成す。痕跡内はAs-Bを主体として灰赤色火山灰・As-Kkをブロック状に含んでいる為As-Kk降下後の掘削であり、また７層より上層は堆積が乱れていないことから12層から７層堆積期間内に掘削されている。以上の事からこの痕跡は中世の所産と考えられる。　**出土遺物**　なし。

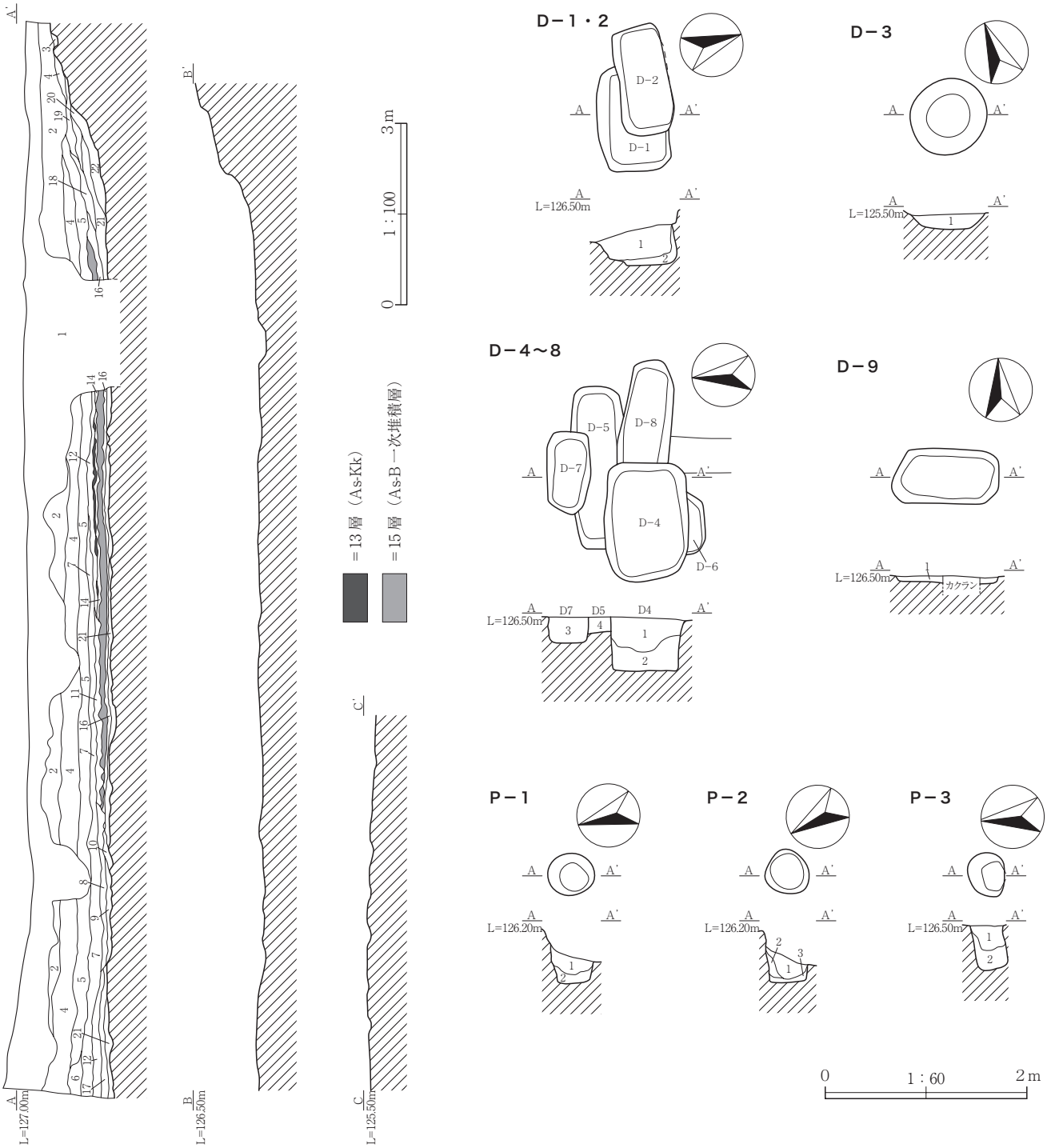
２　溝・土坑・ピット（第５・６図、第１表）

詳細は第１表の溝・土坑・ピット計測表を参照。帰属時期は土層観察から中世以降と考えられる。

第１表　溝・土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	断面形状
Ｗ－１	Ｘ１～３、Ｙ４・５	［6.1］	0.29	0.51	弧状
遺構名	位置	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	形状
Ｄ－１	Ｘ２、Ｙ４	1.06	0.69	0.36	長方形
Ｄ－２	Ｘ１・２、Ｙ４	1.10	0.54	0.41	長方形
Ｄ－３	Ｘ２、Ｙ６	0.77	0.74	0.16	円形
Ｄ－４	Ｘ２、Ｙ４	1.19	0.84	0.54	長方形
Ｄ－５	Ｘ２、Ｙ４	1.62	(0.55)	0.17	長方形
Ｄ－６	Ｘ２、Ｙ４	0.62	(0.22)	0.20	長方形
Ｄ－７	Ｘ２、Ｙ４	0.83	0.44	0.26	長方形
Ｄ－８	Ｘ２、Ｙ４	(1.02)	0.57	0.19	長方形
Ｄ－９	Ｘ２、Ｙ４	1.06	0.55	0.08	長方形
Ｐ－１	Ｘ２、Ｙ５	0.46	0.42	0.39	円形
Ｐ－２	Ｘ２、Ｙ５	0.46	0.43	0.36	円形
Ｐ－３	Ｘ２、Ｙ３・４	0.44	0.38	0.45	円形

第５図　総社町屋敷南遺跡２全体図



周堀・W－１号溝　SPA
1　撹乱
2　暗褐色土（10YR3/4）　As-Aを少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土主体。W－１覆土。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　As-B混土層。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）　As-B混土層。締まり有り、粘性有り。
6　暗褐色土（10YR3/3）　As-B混土層に小礫を多量に含む。締まり有り、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/4）　As-B混土層。灰褐色粘質土を少量含む。
8　黒褐色土（10YR3/2）　灰褐色粘質土ブロックを少量、As-Bを微量含む。締まり有り、粘性やや強い。
9　黒褐色土（10YR3/2）　灰褐色粘質土粒・As-Bを少量含む。締まり有り、粘性やや強い。
10　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　黄褐色砂質土・黒色土・As-Bの混合土。締まり有り、粘性あり。
11　褐色土（10YR4/4）　As-B・灰褐色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
12　褐色土（10YR4/4）　灰褐色粘質土ブロックを中量含む。締まり有り、粘性やや強い。
13　青灰色土（5PB5/1）　As-Kk（浅間粕川火山灰層）。締まり有り、粘性有り。
14　赤灰色土（10R6/1）　灰赤色火山灰層。締まり有り、粘性有り。
15　褐灰色土（10YR4/1）　As-B軽石一次堆積層。締まり弱い、粘性弱い。
16　黒褐色土（10YR2/2）　やや粘質な黒色土主体。腐植土層。締まり有り、粘性やや強い。
17　黒褐色土（10YR2/2）　やや粘質な黒色土主体。12層土がブロック状に少量混じる。腐植土層。
締まり有り、粘性やや強い。
18　黒褐色土（10YR3/2）　黒色土を少量含む。締まり有り、粘性有り。
19　暗褐色土（7.5YR3/3）　黄褐色粘質土（Ⅵ層）ブロックを中量含む。締まり有り、粘性やや強い。
20　暗褐色土（7.5YR3/3）　黄褐色粘質土（Ⅵ層）粒・黒色粘質土粒を少量含む。
締まり有り、粘性やや強い。
21　暗褐色土（7.5YR3/3）　黄橙色粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
22　暗褐色土（7.5YR3/3）　黄橙色粒・黄褐色砂質土を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－１・２号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土主体。にぶい黄橙色土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　暗褐色土主体。にぶい黄橙色土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
D－３号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　褐色粒を中量、黒色粘質土・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性やや強い。
D－４・５・７号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土主体。にぶい黄橙色土ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土主体。にぶい黄橙色土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土主体。にぶい黄橙色土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土主体。にぶい黄橙色土粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
D－９号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土主体。にぶい黄橙色土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
P－１号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質土粒を少量、黒色粘質土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　黒色粘質土ブロック・黄褐色砂質土ブロック主体。全体的に硬化。
締まり強い、粘性有り。
P－２号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色砂質土ブロックを中量含む。締まり有り、粘性有り。
2　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　黄褐色砂質土主体。黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
締まり有り、粘性やや弱い。
3　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　黄褐色砂質土主体。やや硬化気味。締まりやや強い、粘性やや弱い。
P－３号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土主体。にぶい黄橙色土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　にぶい黄橙色土（10YR7/3）　にぶい黄橙色土ブロック主体。締まり弱い、粘性弱い。

第６図　遺構平面・断面図

Ⅵ　成果と課題

今回の調査では宝塔山古墳の北東部にあたる周堀が確認された。ここでは周辺での調査成果と合わせて周堀と付帯する遺構について検討しまとめとしたい。

1　宝塔山古墳の概要

宝塔山古墳は、遠見山古墳・王山古墳・総社二子山古墳・愛宕山古墳・蛇穴山古墳と共に総社古墳群を形成する古墳の一つとして知られている。墳丘部は後世の削平等により往時の姿を留めていないが、三段築成の方形と考えられている。現在墳頂部には総社藩秋元家墓所、南西部のやや下った所には光巌寺歴代住職の墓地となっている。内部構造は截石切組積の横穴式両袖型石室で羨道・前室・玄室の複室で構成されている。玄室には刳抜式の家型石棺が据えられておりその精巧な造りから高い石造技術を窺わせる。

宝塔山古墳の記載が現れる書物は江戸時代まで遡る。国学者の奈佐勝皐は天明六年（1786）五月十一日に総社の地を訪れ、蛇穴山古墳と共に当時の古墳・石室の様子を『山吹日記』に記している。吉田芝渓は『上毛上野古墓記』（文化七年、1810）で愛宕山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳の石室について観察を行っており、墳丘・石室の規模・構造から編年的な序列化を行っている。

大正９年、福島武雄らによって石室・石棺の実測図が作成された[(1)]。昭和 10 年から県内の古墳で一斉に調査が行われ、『上毛古墳綜覧』として調査結果がまとめられた。その中で宝塔山古墳は総社町九号墳として記されている。昭和 43 年、群馬大学尾崎喜左雄研究室によって前庭部の発掘調査、石室及び付帯施設の実測作業が行われた。調査により石室の全容、大規模な前庭と優れた石工技術による構造が明らかになった。また前室入口玄門状構造の根石下から唐銭・宋銭が出土しており、石室開口時期が中世まで遡ると推測された[(2)]。昭和 54 年に墳丘南側の道路で下水管の敷設工事が行われた際に、本墳の東南隅寄りにあたると思われる基壇裾部が確認されている。築造当時の地表面と考えられる黒色土上に葺石を施し、葺石内側は版築状の盛土で構築されている。葺石外側は平坦が続いており、裾部から周堀までの間に平坦面を持つ付帯施設が想定されている[(3)]。平成元年、白石太一郎らによって墳丘測量・石室実測調査が実施された。作成された現況図を基に復元を行い一辺 56 ｍを下らない墳丘、墓域は一辺 100 ｍに迫るものと推測された[(4)]。平成 20 年、宝塔山古墳・蛇穴山古墳の周堀等の外周施設と古墳範囲確定の為の試掘調査が行われた（蛇穴山古墳・宝塔山古墳第２次試掘調査[(5)]）。宝塔山古墳においては周堀北東隅付近の立ち上りを検出し、堀底近くで As-B 一次堆積層が確認された。また 14 トレンチでは内側の立ち上りの兆候が確認された。平成 21 年、総社町公民館建設に伴う発掘調査（総社町屋敷南遺跡１[(6)]）が行われ、周堀北東隅が検出された。一部は堀底までの調査に至り、約 0.7 ｍの深さと判明している。墳丘北東隅部と考えられる箇所は後世の井戸によって消失している。

年代観については尾崎喜左雄が石室の規模・構造や使用尺度等から総社古墳群の編年を行った[(7)]。尾崎の成果を基に、右島和夫は石棺の工法や石室内構造等畿内の古墳にみられる類例から編年序列の組み換えを行い宝塔山古墳を７世紀第３四半期と位置付けている。

2　宝塔山古墳の想定

本遺跡と総社町屋敷南遺跡・宝塔山古墳測量図を合成したものが「宝塔山古墳想定図」（第７図）である。まず周堀外郭ラインを見てみたい。総社町屋敷南遺跡１と試掘調査で確認された周堀東北隅から延びる北外郭ラインは本遺跡周堀の中段とほぼ合致する。外郭ラインの軸方向を測るとＮ－32°－Ｅとなり、石室軸であるＮ－31°－Ｅからみても同軸といえる範囲内である。周堀の幅は外郭ラインと平成 20 年の試掘調査において確認された

墳丘側立ち上りの兆候までの約 18 mを測るが外側上端部が削平されている事を考慮すれば若干拡がると考えられる。

墳丘範囲は試掘調査での墳丘側立ち上りの兆候と築造時の平坦面を比較的に維持していると考えられる墳頂部の中央部を基に、周堀外郭ラインに平行させラインを引くと一辺約 66 mの規模となる。堀幅は現状で約 18 mを測るが外側上端部が削平されている事を考慮すれば、一辺約 102 mを超える大型方墳と想定される。しかし古墳北東側の調査成果だけを基に行った想定であり、明確な規模を示すとなると考古学的な実証が少なく想定の範囲を出ないのが現状である。

3　溝状遺構

周堀底面から溝状遺構が確認された。直近の総社町屋敷南遺跡 1 では底面までの調査は一部である為、周堀内での連続する遺構がどうかは不明である。溝軸 N － 23 ～ 40°－ E、周堀軸 N － 32°－ E とほぼ周堀の軸方向に合わせて掘削されており、古墳の軸を意識して掘られたことは明白であると考えられる。掘削時期は検出状況から周堀築造時に非常に近い時期と思われるが、遺構の性格については判断材料が少なく判然としない。今回は覆土・確認状況から周堀掘削時の作業痕跡の可能性があるに留め、今後の課題としたい。

4　耕作具痕跡

As-B 上位より掘り込まれた耕作具痕跡の確認事例は県内では少なくない。下芝天神遺跡では As-B 上位から As-Kk 下位の間で確認されており、耕作具痕の切り合いの少なさから「日常的な行動ではなく、1 回性の一時的に連続して行われたもの」で「区画を意識」した行動であるとしている。[8] 中内村前遺跡では As-B に埋もれた水田復旧の為に掘り込まれた掘削痕としている。

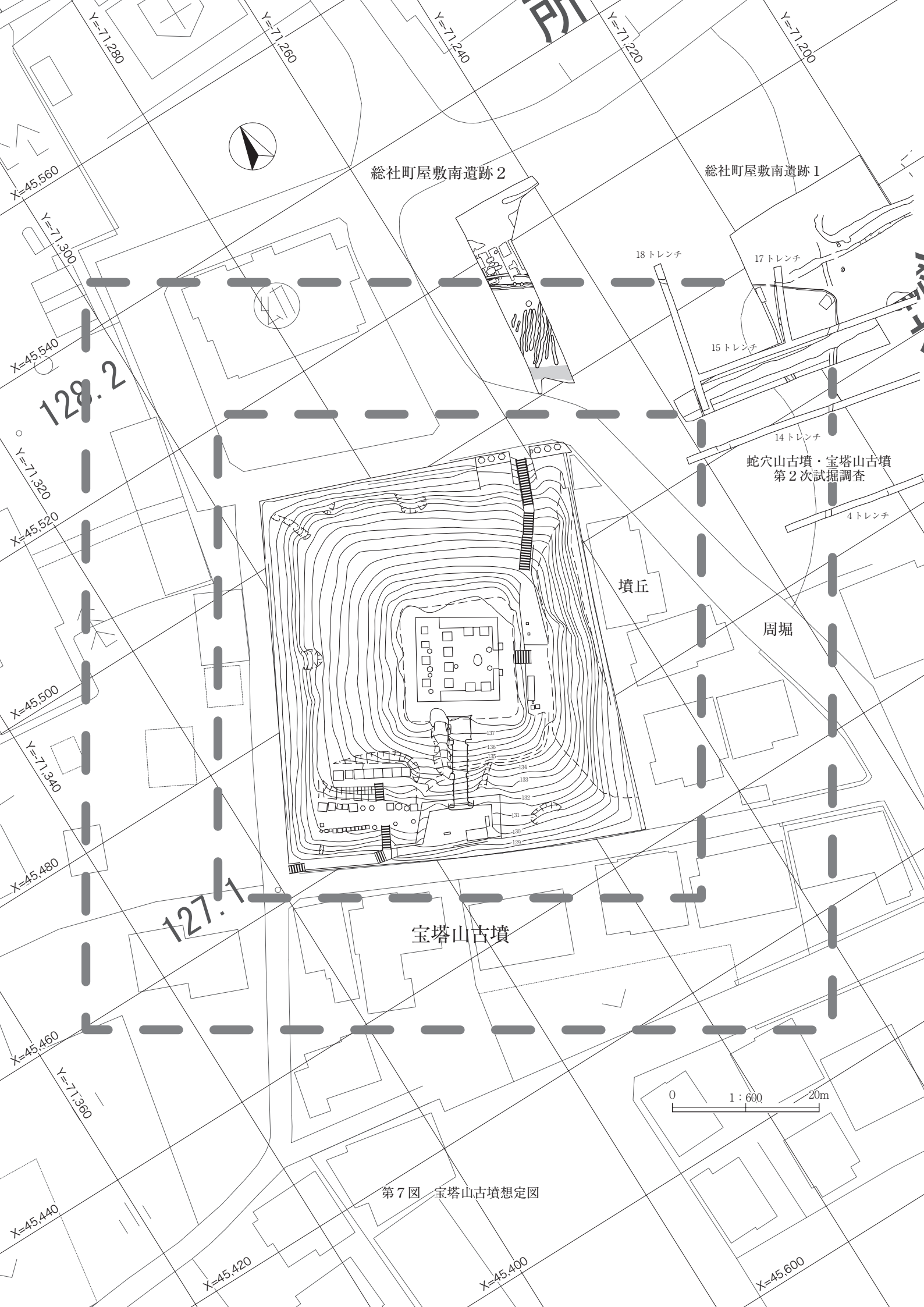
本遺跡での耕作具痕跡は幅約 1.8 m、周堀ラインに合わせるよう確認された。半月状の痕跡が切り合わないように検出しているため前述のような「1 回性の一時的な」行為であったといえる。土層観察で帯状に確認された耕作具痕跡から墳丘側では As-B の自然堆積は見られず、As-B 直下の黒色土もやや乱れた状況が窺える。耕作具痕跡としては帯状に確認されたが、行為として考えた場合耕作具痕跡から墳丘側の周堀内の範囲で行われたのではないかと推測される。

5　結

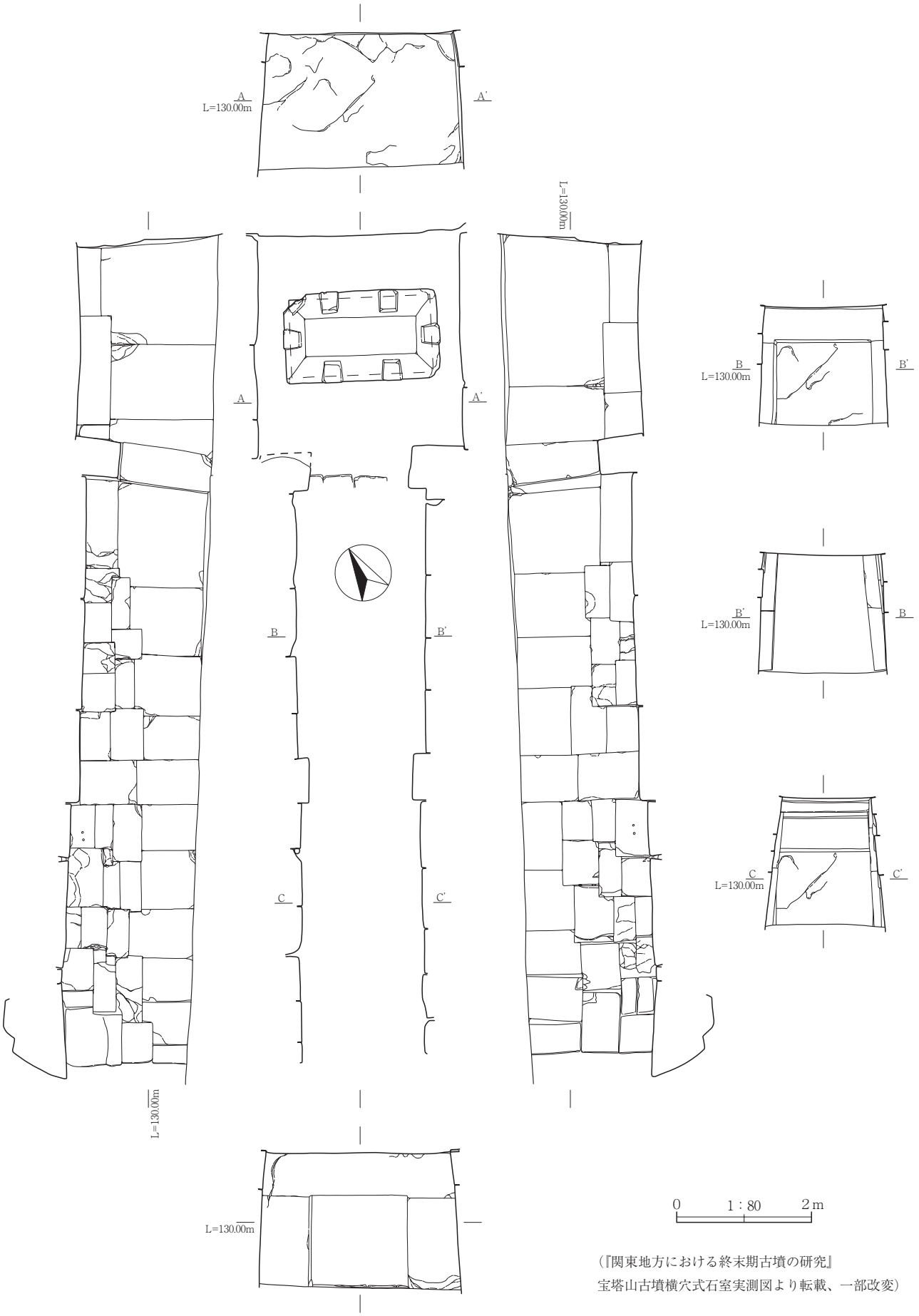
今回の成果によって宝塔山古墳の周堀北外郭ラインはほぼ確定されたと考えられる。また周堀築造時の痕跡を匂わす溝状遺構や古墳築造後の周堀の在り方を考えさせる耕作具痕跡も確認され、宝塔山古墳を研究する上での有益な情報を得ることができた。墳丘の規模、溝状遺構の性格等多くの課題も残った調査成果となったが、今後の調査・研究の進展に伴い解明されることを願い結びとしたい。

註

（1）総社町誌編纂委員会　1956　『總社町誌』
（2）前橋市教育委員会　1968　『宝塔山古墳石室調査概報』
（3）右島和夫　1994　「第六章　総社古墳群の研究　4　宝塔山古墳」『東国古墳時代の研究』　学生社
（4）白石太一郎ほか　1990　『関東地方における終末期古墳の研究』科学研究費補助金（一般研究 B）研究成果報告書　国立歴史民俗博物館
（5）前橋市教育委員会　2008　『年報　第 38 集』平成 19 年度文化財調査報告書
（6）前橋市教育委員会　2010　『総社町屋敷南遺跡 1 』
（7）尾崎喜左雄　1971　「宝塔山古墳」『前橋市史　第一巻』　前橋市
（8）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1998　「Ⅴ章　調査の成果と課題　1　耕作具痕の視点」『下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡』

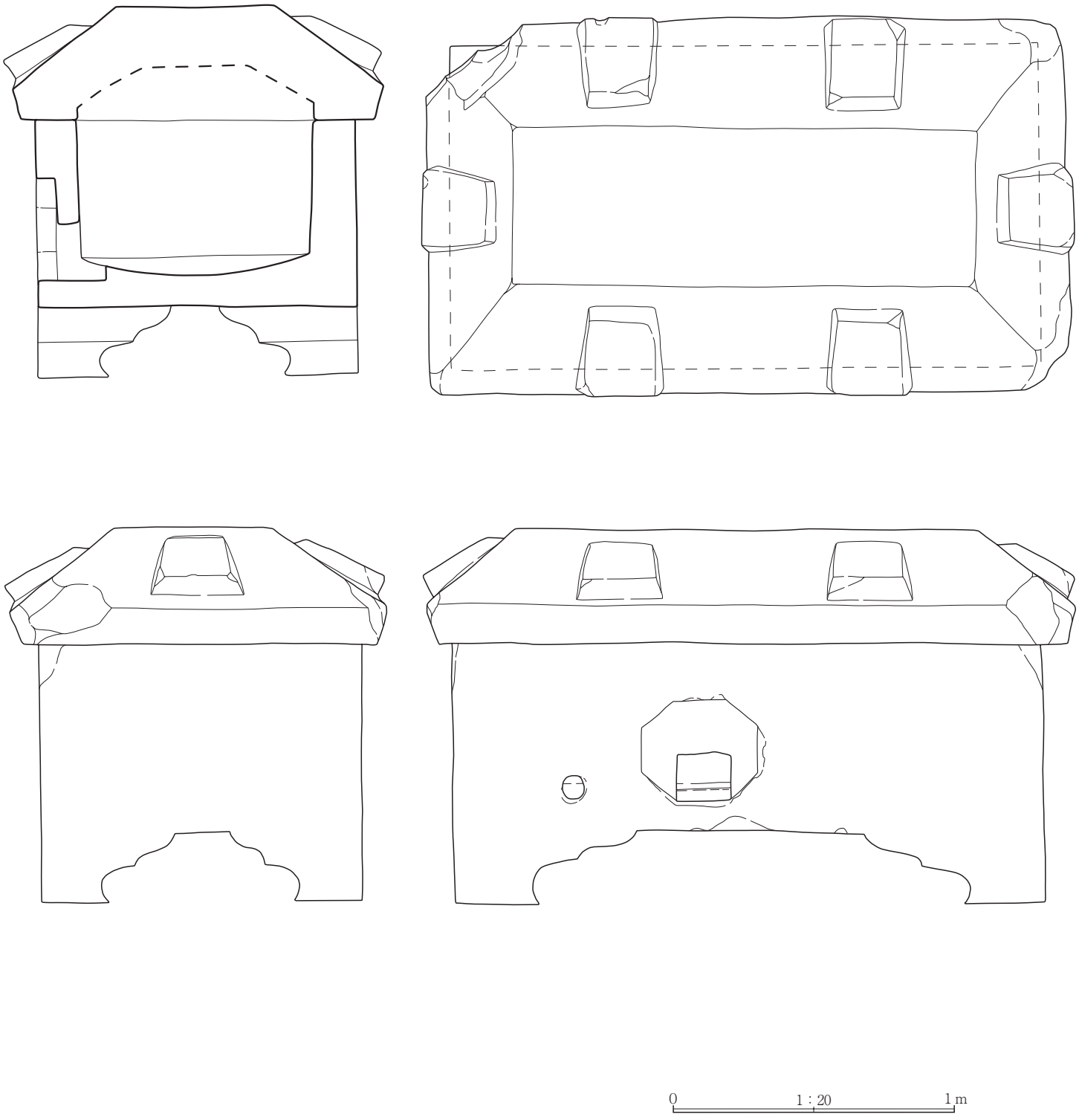


第７図　宝塔山古墳想定図



（『関東地方における終末期古墳の研究』
宝塔山古墳横穴式石室実測図より転載、一部改変）

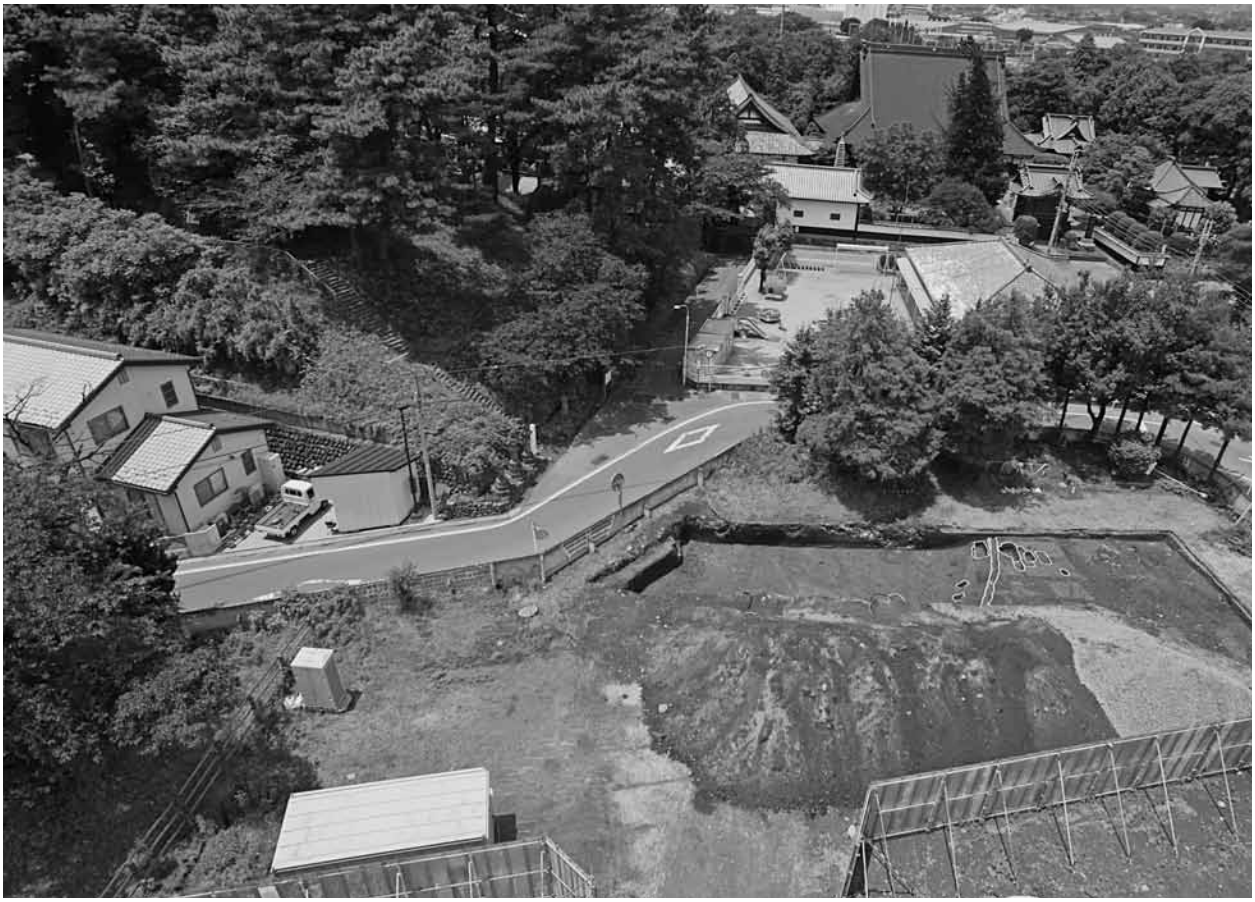
第８図　宝塔山古墳横穴式石室実測図



（『関東地方における終末期古墳の研究』
宝塔山古墳家形石棺実測図より転載、一部改変）

第９図　宝塔山古墳家形石棺実測図

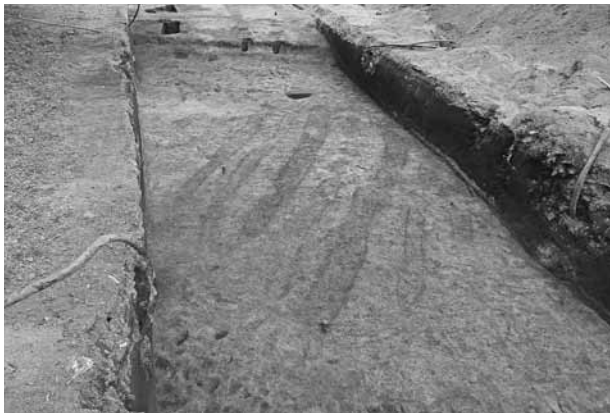
調査区　全景（上が西）



宝塔山古墳と調査区　全景（東から）

周堀　全景（南東から）

調査区南壁面際周堀底面状況（北から）



溝状遺構確認状況（南から）

耕作具痕跡確認状況（東から）

耕作具痕跡確認状況（北から）

耕作具痕跡　全景（東から）

作業風景（北から）

作業風景（東から）

報　告　書　抄　録

フリガナ	ソウジャマチヤシキミナミイセキ２
書名	総社町屋敷南遺跡２
副書名	市道18-449、18-457号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	福田貫之　佐野良平
編集機関	技研測量設計株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町１－15－３
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町２－10－２
発行年月日	2011年８月10日

ふりがな	ふりがな	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
そうじゃまちやしきみなみいせき 総社町屋敷南遺跡２	まえばししそうじゃまちそうじゃ 前橋市総社町総社 1602-2	10201	23A139	36°24’16”	139°02’32”	20110606 ～ 20110614	197㎡	市道18-449、 18-457号線 道路改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
総社町屋敷南遺跡２	古墳	古墳時代 中世以降	周堀 溝　１条 土坑　９基 ピット　４基		宝塔山古墳　周堀

要約	本報告書は市道18-449、18-457号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。 本遺跡は国指定史跡宝塔山古墳に隣接する北東側の古墳周堀が想定される範囲に位置する。今回の調査では周堀を確認し、調査成果から周堀外郭ライン想定を行った。また溝状遺構やAs-B降下後に行われた耕作具による掘削痕跡が堀底から検出しており、周堀に関連する遺構として特筆される。

総社町屋敷南遺跡２
市道18-449、18-457号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2011年８月５日　印刷
2011年８月10日　発行

発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371-0018　群馬県前橋市三俣町２-10-２
TEL　027-231-9531
編集　技研測量設計株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社